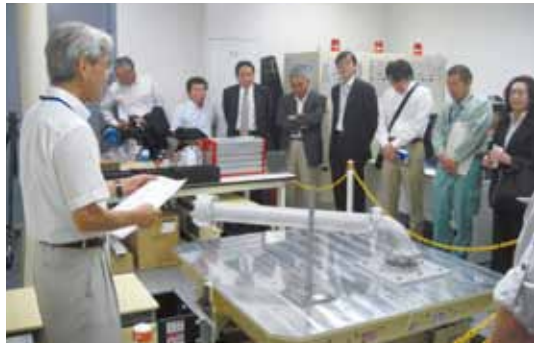


本学の研究施設見学会を開催しました

平成23年9月26日(月)に大学研究施設見学会を開催し、企業や研究機関の71名の皆様から参加いただきました。この見学会は、本学ではどのような研究設備があるのか、どのような研究を行っているのかを知っていただき、産業界との交流を深め、産学連携を推進したいとの思いから3年ぶりに開催しました。始めに、各学科の研究内容や産業界との共同研究の事例の紹介などを行い、参加者の希望コースに分かれ、様々な研究施設や原子力耐震・構造研究センターを見学していただき、研究の現状や所有する機器の特徴などを紹介しました。

参加いただいた企業の皆様からは、研究を行っている施設を見学でき、各教員の研究内容を理解することができたという感想をいただきました。本学では、毎年実験機器の拡充を行っていることから、今後も定期的に開催したいと考えております。また、個別の見学にも応じますのでお気軽にお問い合わせください。



振動試験に関する研究紹介
(原子力耐震・構造研究センター内の振動試験室)



加工プロセスによる新材料の開発に関する研究紹介
(加工プロセス工学研究室)

研究成果発表会「技術シーズプレゼンテーションin魚沼」を開催

平成23年9月29日(木)、魚沼市の小出ボランティアセンターにおいて、企業や研究機関の方々に本学の研究成果を発表する「2011技術シーズプレゼンテーションin魚沼」を開催しました。

この成果発表会は、本学、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校の共催で開催し、「環境基盤・エネルギー・ものづくり」をテーマに12件の研究成果発表を行いました。本学からは、「福祉分野への工学技術の応用」(機械制御システム工学科 寺島正二郎教授)、「パルス大電力技術による水環境浄化」(情報電子工学科 今田剛准教授)、「新潟の気候風土における分散型電源ネットワーク技術の利用」(建築学科 富永禎秀教授)の3件の発表を行いました。



「パルス大電力技術による水環境浄化」
(情報電子工学科 今田剛准教授)

小千谷産学交流研究会を開催



「小水力発電」
(情報電子工学科 佐藤栄一准教授)

本学、新潟大学、長岡技術科学大学により、平成23年8月4日(木)に小千谷市総合産業会館サンプラザにおいて、小千谷産学交流研究会を開催し、小千谷地域の産業界関係者89名の皆様から参加をいただきました。

本学からは、情報電子工学科の佐藤栄一准教授から小水力発電をテーマに、上下水や農業用水などの既設水路を利用した小規模な水力発電の取組みを紹介しました。この研究では、売電と投資回収期間の導入モデルや資金調達の経済性の評価、また関係法令への対処法等を含め、実用化するにあたっての具体的な事例を交えて紹介を行いました。

企業を訪ねて 8

株式会社ブルボン(食品製造業:柏崎市松波4丁目2番14号)

■「食」を通して皆さまの豊かな暮らしに貢献

平成24年3月5日(月)、柏崎市の株式会社ブルボン本社に吉田康代表取締役社長を訪ねました。長年にわたり、「食」を通して皆さまに愛され、豊かな暮らしの実現を目指す活動や取組みについて伺いました。



吉田 康 社長 (株式会社ブルボン本社にて)
(左:聞き手 原 利昭 本学地域産学交流センター長)

聞き手◆貴社の企業精神について教えてください。

吉田氏◇当社は柏崎市内の和菓子の老舗「最上屋」から発祥し、大正13年に創業いたしました。関東大震災の時には関東方面から日本海側への物流がストップした窮状を見て、地方にも菓子の量産工場が必要であると感じ、保存食となるビスケットなどの生産を手掛けてきました。平成7年1月、ペットボトル入りミネラルウォーターの生産開始日が阪神淡路大震災と偶然重なり、急遽この水を関西地域に支援物資として送りました。その後、持ち歩きできるサイズの水がほしいというお客様の声があり、500mlミネラルウォーターの生産に着手しました。当時500mlのペットボトルは国内では他に1社のみが製造していたと思いますが、現在、500mlのペットボトル飲料が普及していることを思いますと皆様のニーズにいち早く対応できたのではないかと感じています。また、その当時、乾パン製造は休止していましたが、非常食としての必要性を再認識し、再び製造に着手しました。災害時のみならず、社会の皆様が“今”求めていることをいち早く察知し、少しでもお役に立てるようなことを実践したいという思いを持って社員一同取り組んでいるところです。当社は「響働」の合言葉のもと、お客様、お取引先様、株主様、また社員を含め、お一人お一人と心を合わせ、目的に響き合って共に歩んでいきたいと考えています。

◆東日本大震災における避難所では、ブルボンのビスケットが大変好評だったと聞いています。長年、「食」という観点から見まして、社会の変化などはどのように感じられていますか。

◇昔はスーパーマーケットなどへのリーズナブルな価格に対応した大量生産が主でしたが、コンビニエンスストアの

普及により、お客様の様々な要望に応えるため、多品種少量生産でもコスト競争に対応できるように取り組んできました。各業界、または店舗ごとに、様々な陳列棚の形状があることを踏まえて開発を行い、幅広い年代の生活スタイルの変化に合わせた商品づくりを行いました。当然のことながら、表現デザインの工夫や楽しい印象を持つていただけるようなエンターテインメント性を付加することも心がけています。

◆商品の安全・安心といった面から、リスクマネジメントについてはどのように取り組まれていますでしょうか。

◇以前に乳製品を取り扱う大手食品会社の大規模な食中毒の問題がありました。当社としてもその際に組織や管理体制について抜本的に見直し、事故防止のために生産ラインを停止するなどして確認するシステムや体制としています。環境リスクマネジメントの面からも細部項目からなる報告書を作成し、検証しているところです。

◆本学教員と食品に関連する共同研究を行っていただいております。感謝申し上げます。社員様を拝見していますと皆様が意欲的に業務に取り組まれていると感じますが人材育成についてはどのようにお考えですか。

◇特別なことではありませんが、社員が業務に関連することを自発的、積極的に習得できるような社内体制や環境づくりを推進しています。

◆貴社及び食品製造業界全体の今後についてはどのようにお考えでしょうか。

◇現在、経済環境は円高や原材料価格の高値推移の状況となっています。また、安定した調達と商品の供給を行っていかねばなりません。国内外のメーカーとの競争や海外のM&Aの状況なども踏まえ、様々な面からの対応が必要と考えています。

当社は、商品の開発から製造までを自社で一貫して行っています。今後は健康という観点を更に見つめ、新しい分野に取り組んでいきたいと思っています。

海外生産という面では、いち早く進出する企業が多かったと思いますが、当社は国内基盤をより確固たるものにしてから、8年前に中国に進出しました。現在はアメリカに法人を設立し、定期的にアメリカ、中国、日本を結んでテレビ会議システムを用いて情報の共有化を図り、国内外での業務の拡大を図っているところです。

◆【お話を伺う中で、時代のニーズを素早く捉え、皆様に喜ばれる事業をいち早く手掛けられていることを改めて認識いたしました。お忙しいところ誠にありがとうございました。】

■ 先進企業見学会で「YKK」、「コマツ」、「北陸コココーラボトリング」を視察

平成23年11月24日(木)～25日(金)、産学交流会会員企業を対象として、毎年好評の先進企業見学会を開催しました。YKK黒部事業所では世界70の国と地域でファスナー及び建材の販売事業を展開している生産工程の見学を行いました。続いてコマツ粟津工場では、ホイールローダー組立ラインやトランスミッションの製造ラインを視察し、見学後には参加者側から自社技術の売込みが行われました。また、北陸コココーラボトリング砺波工場では、最新・最強の自動生産設備を備え、環境に配慮した21世紀型の工場を見学しました。参加者からは、次回もこのような先進企業の見学会に是非参加したいといったご意見を戴きました。このような企業見学は、企業単独での申込みが難しいというケースが多いため、本学と企業の皆様と一緒に勉強できるこのような見学会を企画したいと思っておりますので、今後も多くの皆様から参加いただきますようお願いいたします。



YKK黒部事業所



コマツ粟津工場



北陸コココーラボトリング砺波工場

■ 柏崎・上越地域産業界と本学との産学交流会を開催

柏崎産業界及び上越産業界との産学交流会を、平成23年11月22日(火)に本学で開催しました。この交流会は両地域を交互に毎年開催しているものであり、本年は本学及び柏崎市内を会場に、柏崎産業界から20名、上越産業界から18名の参加をいただきました。

交流会の開催にあたり、柏崎市の株式会社飯塚鉄工所を訪問し、工作機械メーカーと開発した6軸複合旋盤を使用した製造工程などを見学しました。その後、本学に会場を移し、産学交流会を開催しました。始めに、本学の花岡准教授から「技術者倫理」について、地域産学交流センターの原センター長からは「産学連携の進め方や連携事例」について紹介しました。続いて、柏崎商工会議所会頭の西川正男様及び柏崎市ものづくり活性化センター次長の高橋正智様から、電気自動車事業やものづくりマイスター・カレッジの取り組みなどについて、また、上越技術研究会のウエノテックス株式会社代表取締役の上野秀正様からは上越難削材加工研究会の活動について紹介いただきました。今後も本交流会を通じ、本学と両地域の連携を推進するとともに、両地域間の交流の活性化を支援させていただければと考えております。



株式会社飯塚鉄工所の見学の様子



両地域の取組事例の紹介の様子

■ 燕三条地域産学交流会を開催



環境科学科 小野寺正幸准教授の研究紹介

平成23年9月1日(木)に燕三条地域地場産業振興センターにおいて燕三条地域産学交流会を開催しました。

本学の研究成果の発表として、環境科学科の小野寺正幸准教授が「有機性廃棄物を有機性揮発物へ～生ゴミ・廃食用油からエネルギー・有用物質生産～」をテーマに、メタン発酵処理液の肥料化の取り組みについて発表を行いました。また、「乱流の基礎的性質と省エネルギー技術の開発」をテーマに、新潟大学工学部機械システム工学科の松原幸治准教授から、乱流のシミュレーション技術や共同研究によるスターリングエンジンを利用した省エネルギー技術等に係る講演を行いました。地域の地場産業に関連した研究紹介や今後の社会に生かせるような分野を、このような交流会を通じて紹介していきたいと考えています。

■ 新潟工科大学産学交流会会員企業との地域別懇談会を開催

本懇談会は、会員企業との連携や会員相互の交流促進を図ることを目的に、小人数形式によって各地域（新潟、長岡、上越、柏崎、県央）において毎年開催しているものであります。懇談会では、産業界と本学が協力して取組む具体的な事項や学生の教育手法・人材育成に関することを含め、活発な意見交換を行いました。戴きましたご意見・ご要望を今後の教育研究や産業界との連携に反映させていきたいと思っております。

平成23年	7月26日(火)	新潟地域(新潟テルサ)
	10月7日(金)	長岡地域(長岡市立劇場)
	10月12日(水)	上越地域(上越観光物産センター)
平成24年	1月26日(木)	柏崎地域(本学)
	3月23日(金)	県央地域(燕市吉田産業会館)



新潟地域懇談会の様子

案内

■ 新潟工科大学産学交流会の入会ご案内

～ 200社を超える企業が大学と交流・連携し、会員企業相互で交流を深めています ～

企業と新潟工科大学の連携を推進し、会員企業の資質向上と地域の発展に寄与することを目的として設立されました。大学と積極的な交流を通して、研究への指導と助言、共同研究の促進、技術相談および講演会など、各種機能を会員企業が有効に利用し、活用するための情報提供と窓口業務を行います。

また、大学設立の経緯と開学の理念に基づき、大学運営の円滑化と教育研究の充実を図るための各種支援事業を行うとともに、会員相互の交流を進めるための事業を行っています。

- 【会長】 古泉 肇 (亀田製菓株式会社 名誉会長)
- 【副会長】 有沢 栄一 (株式会社有沢製作所 特別顧問)
- 【副会長】 佐藤 功 (佐藤食品工業株式会社 代表取締役会長)

産学交流会の会員企業を募集しております。
(入会は随時可能です)

【新潟工科大学産学交流会の事業概要】

学生の就職活動支援、職業実習生の受入れ、学外講師派遣、大学の広報活動支援、キャンパスの緑化と学内施設・研究設備の充実、教員の研究内容の開示、利活用窓口業務、産学交流事業 (入会のご案内:http://www.niit.ac.jp/info/support/niit_exchanges_index.html)

■ 平成24年度地域産学交流センター事業計画

本学地域産学交流センターでは、平成24年度に次の事業を予定しています。

- 新潟工科大学産学交流会会員企業との地域懇談会 (新潟、長岡、上越、柏崎、県央、県外)
- 先進企業見学会
- 技術シーズプレゼンテーション
- 柏崎・上越産業界と新潟工科大学との産学交流会
- 燕三条地域産学交流会
- 小千谷産学交流研究会
- 新潟国際ビジネスメッセ、各種産学官連携フォーラムへの参加
- 企業訪問の実施
- その他、産学官連携事業への参加

■ 求人情報の提供のお願い、大学へのご要望・問い合わせ

【企業・事業所様へのお願い】本学学生の求人は随時受け付けています。本学学生の採用については是非ご検討願います。

求人のご案内 / 新潟工科大学 キャリア・産学交流推進課 TEL : 0257-22-8110
ホームページ : http://www.niit.ac.jp/job/job_contact.html

■ 編集後記

2011年3月11日に発生した東日本大震災、及び翌12日の長野県・新潟県県境付近の地震により、甚大な被害を受けられた皆様にご心からお見舞いを申し上げます。本学も2004年の新潟県中越地震と2007年の新潟県中越沖地震により、大きな被害を受けました。その際に多くの皆様からご支援をいただき、被災された方の悼みは僅かばかりですがわかる気持ちであります。本学は産学連携を通じ、少しでも皆様のお役に立てるように次年度も積極的な事業を推進していきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。(地域産学交流センター長 原 利昭)

- 発行
新潟工科大学地域産学交流センター広報誌 第7号
平成24年3月31日
新潟工科大学地域産学交流センター運営委員会
- 連絡先 新潟工科大学地域産学交流センター
〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
新潟工科大学 キャリア・産学交流推進課内
TEL : 0257-22-8110
FAX : 0257-22-8123
E-mail : career-sangaku@adm.niit.ac.jp